

川島なお美さん、今井雅之さん、竹田圭五さんから「早死」急増のなぜ？ 『日本人はもう 55 歳まで生きられない 少食が健康長寿のコツ』

ガン、糖尿病、不妊の原因は飽食と冷えだった 日本人 55 歳寿命説！

(著者)石原結實

〈価格〉1,200 円＋税 〈発売日〉2016 年 3 月 26 日 〈出版元〉ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区:代表取締役社長 唐津隆)は、2016 年 3 月 26 日に『日本人はもう 55 歳まで生きられない 少食が健康長寿のコツ』を発売いたしました。

著者の医師である石原氏は、本書の中で大胆にも「55 歳寿命説」を唱えています。2014 年の平均寿命は男性 80.50 歳、女性 86.83 歳で、世界的に見ても日本は屈指の長寿国です。女性の長寿者の数が断然多いので男女の平均寿命を 85 歳と仮定すると、1 世代=およそ 30 年なので 85 歳から 30 年引いた 55 歳以下で亡くなる人は「早死に」と言っているといと著者は言います。

一方で、2015 年、医師数は約 31 万人になり、ガンに対する研究や治療法は格段に進歩したとされているのに、2015 年のガン死者数は 36 万人を越えています。また、1945 年の終戦直後は数百人しかいなかった糖尿病患者も、今や予備軍を含めて 2000 万人以上に激増、現在 1 年間に医療費 40 兆円超が費やされており、医師たちも過酷な労働に耐えて懸命な治療をしているのにこのような状態となっているのです。

さらに親よりも子が先に亡くなる「逆さ仏」現象が起こっています。著者の見解では、このままでは「早死に」と「逆さ仏」現象が日本社会で着実に増加していき、さらに「不妊症」に至っては、今や 6 組に 1 組のカップルが悩んでいるといわれているため、このままでは、人口減少から日本の国力が加速的に減衰していくのは間違いないと見ています。著者いわく、そうしたガン・糖尿病・不妊症の増加の最大要因が「食べすぎ」。そこで本書では、それらのメカニズムと解決策、健康になるためのアドバイスとその実践方法を公開し、「早死に」のリスクを減らし、「逆さ仏」現象を食い止める方法を伝授します。

<本書の内容>

- 第 1 章 ガン早死「急増」の真実
- 第 2 章 血液を汚す習慣、キレイにする習慣
- 第 3 章 糖尿病、不妊症が意味するもの
- 第 4 章 ガン、糖尿病、不妊症が暗示する人類滅亡
- 第 5 章 高騰する医療費を抑える 6 つの処方箋

著者:石原結實(いしはら・ゆうみ)

1948 年、長崎市生まれ。長崎大学医学部を卒業して血液内科を専攻。後に同大学院博士課程で「白血球の働きと食物・運動の関係」について研究し、医学博士の学位を取得。スイスの自然療法病院 B・ベンナークリニックやモスクワの断食療法病院でガンをはじめとする種々の病気、自然療法を勉強。コーカサス地方の長寿村にも長寿食の研究に 5 回



赴く(ジョージア共和国科学アカデミー長寿医学会名誉会員)。現在イシハラクリニック院長の他、伊豆で健康増進を目的とする保養所を運営。

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。

《 お問い合わせ先 》

株式会社ビジネス社 広報担当:松矢

〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

TEL 03-5227-1602/FAX 03-5227-1603